

兵庫県姫路市

中心市街地活性化基本計画概要

【4期計画:令和7年4月～令和12年3月】

【姫路市の概要】 人口525,884人（R5年12月31日現在※住民基本台帳より）、面積534.35km²

- ・戦国時代以降、姫路城の城下町として栄え発展の基礎を築く。
- ・戦後にかけて、戦災からの復興、臨海部での工業地帯の形成などにより、播磨地域の中核として発展する。

【中心市街地の課題等】

○中心市街地全体での回遊性の向上

観光客数は、コロナ禍前の近い水準に回復しつつあるものの、中心市街地全体の回遊性向上には至っていない。また、大阪・関西万博の開催を契機に、外国人観光客でも楽しめる取組みが重要となる。

○地域経済の活力の向上

商店街を中心に、後継者不足等により、地域経済活動の活力の低下とともに、インターネット等を利用した商品・サービスの購入などライフスタイルの変化等により、まちなかへ来街する機会が減少傾向にある。

○多様な人々が暮らしやすい環境づくり

中心市街地は、これまで築き上げられた地域のアイデンティティの中心として、これからも地域住民が愛着を持ち、子ども、若者、女性、高齢者などをはじめ、多様な人々の居場所としての役割を果たすことが期待されている。

○民主導のエリアマネジメントによる更なるにぎわいの創出

大手前通りを中心に更なるにぎわいを創出するには、行政と民間事業者の間に立つ組織によるエリアマネジメントを展開する必要がある。

【計画目標と数値】（右：前期計画目標と数値）

目 標	目 標 指 標	基 準 値	目 標 値
にぎわいと感動にあふれる中心市街地の確立	歩行者通行量	85,542人 (R5・R6年度平均)	91,000人 (R11年4月)
魅力ある商業地としての中心市街地の形成	新規出店店舗数	30店舗/年 (R2年度～R5年度年平均)	31店舗/年 (R7年度～R11年度平均)
	【補完目標】 空き店舗数	32店舗 (R5年度末調査)	27店舗 (R11年度末調査)
多様な人を包摂する市民の暮らし・生活の場の充実	居住者数	11,099人 (R5年12月31日時点)	11,100人 (R11年12月31日時点)
民主導による持続的なエリアマネジメントの構築	【補完目標】 来街者の中心市街地での滞留時間	215.8分/人 (R6年度調査)	230分/人 (R11年度調査)

【目指す中心市街地の都市像】

国内外の人々が行き交い、多様な人々に愛される持続可能な城下まち

【中心市街地活性化の方針】

【基本方針①】行きたい城下まち ～国内外の人々が訪れ、回遊するまちづくり～

居心地が良く歩きたくなるウォーカブルなまちなかを推進することで、訪れる人が魅力を感じ、また来たいと思うようなまちなかを目指すとともに、姫路に暮らす人が、街への誇りと愛着が持てるまちなかの実現を目指す。

→目標:にぎわいと感動にあふれる中心市街地の確立【歩行者通行量】計22事業

【基本方針②】にぎわう城下まち ～魅力ある経済活力を目指したまちづくり～

空き店舗対策や遊休不動産の活用等により、魅力ある店舗等の出店や意欲的な若者や女性等の創業を支援することで、まちなかの活性化を目指す。

→目標:魅力ある商業地としての中心市街地の形成【新規出店店舗数】、【空き店舗数】(補完)計4事業

【基本方針③】住み続ける城下まち ～誰もが住み続けることができるまちづくり～

福祉医療の充実や、都市機能の充実、環境整備等を推進し、日常的に利便性が高く、多様な人々が交流し、安心・安全で健康的に暮らすことができるまちなかを目指す。

→目標:多様な人を包摂する市民の暮らし・生活の場の充実【居住者数】計15事業

【基本方針④】市民が主役の城下まち ～市民が躍動できるまちづくり～

行政とまちなか関係者が課題を共有しながら、民間活力を活用したエリアマネジメントの仕組みの構築により、持続的なまちづくりを目指す

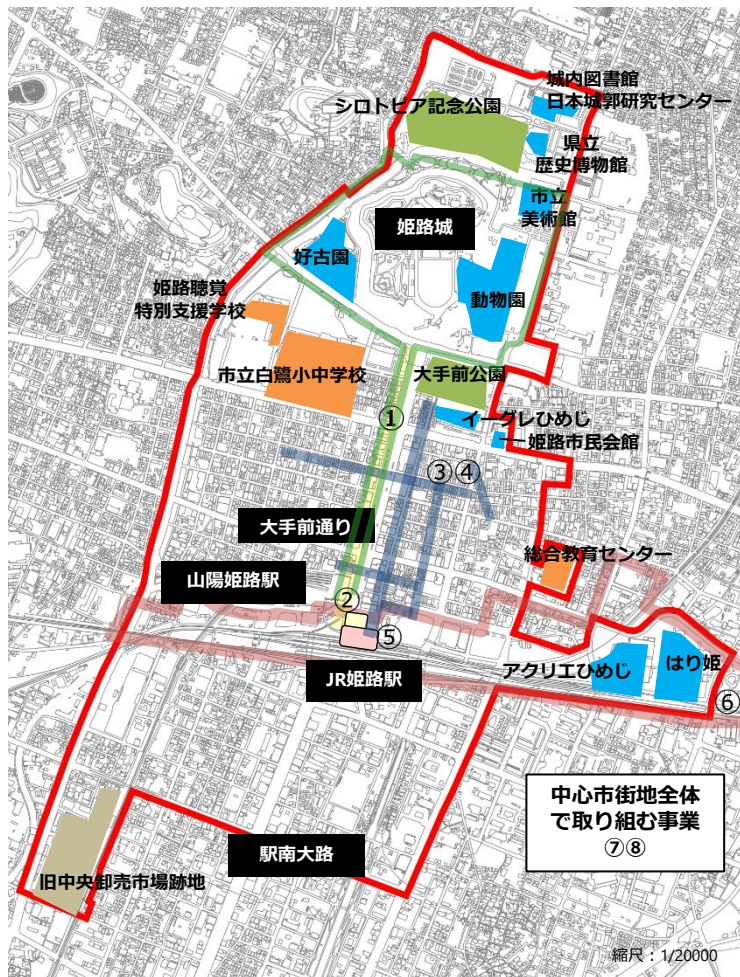
→目標:民主導による持続的なエリアマネジメントの構築【来街者の中心市街地での滞留時間】(補完)計8事業

目 標	目 標 指 標	基 準 値	目 標 値	目 標	目 標 指 標	基 準 値	目 標 値
にぎわいと感動にあふれる中心市街地の確立	歩行者通行量	85,542人 (R5・R6年度平均)	91,000人 (R11年4月)	国際観光都市「姫路」ブランドの確立	歩行者・自転車通行量	106,266人 (H27～R1の平均値)	110,000人 (R6.4)
魅力ある商業地としての中心市街地の形成	新規出店店舗数	30店舗/年 (R2年度～R5年度年平均)	31店舗/年 (R7年度～R11年度平均)	姫路城、商店街、駅前を結ぶ魅力の創出	新規出店店舗数	11店舗 (H29.12～H30.12)	60店舗 (R2～R6の累計)
	【補完目標】 空き店舗数	32店舗 (R5年度末調査)	27店舗 (R11年度末調査)		【補完目標】 空き店舗数	31店舗 (H30)	26店舗 (R7.3)
多様な人を包摂する市民の暮らし・生活の場の充実	居住者数	11,099人 (R5年12月31日時点)	11,100人 (R11年12月31日時点)	楽しさと安心感のある多世代居住の推進	居住者数	10,520人 (H30)	10,820人 (R7.3)
民主導による持続的なエリアマネジメントの構築	【補完目標】 来街者の中心市街地での滞留時間	215.8分/人 (R6年度調査)	230分/人 (R11年度調査)	持続的なエリアマネジメントの構築	【補完目標】 来街者の中心市街地での滞留時間	156.6分/人 (R1)	180.0分/人 (R6)

姫路市中心市街地活性化基本計画の対象区域

中心市街地面積：約272ha

中心市街地人口:11,099人(令和5年12月31日)



にぎわいと感動にあふれる中心市街地の確立

①大手前通り魅力向上推進事業

本市のメインストリートである大手前通りにおいて、イルミネーションの実施等により、ほこみち制度による民間事業者の主体的な公共空間の利用が進み、エリア価値が向上する。

②姫路駅北にぎわい交流広場活用事業

来街者が思い思いに過ごせる憩いの場としての機能と、にぎわい創出を担うイベント利用される場としての機能を両立させることで、居心地が良く歩きたくなるまちなかを推進する。

魅力ある商業地としての中心市街地の形成

③中心市街地空き店舗対策事業

商工会議所や商店街と連携して課題や時流に応じて要綱の見直しを行うことで、事業者が活用しやすいメニューが構築され、新規出店が促進される。

④商店街整備事業

地域の商業機能の担い手として中核的な役割をもつ商店街が実施するハード整備を支援することで、商店街のイメージアップにつながり、魅力的な商店街が形成される。

多様な人を包摂する市民の暮らし・生活の場

⑤ まちなか子育てサポート事業

姫路駅前の商業施設内に乳幼児と保護者が交流できる場所を設け、子育てについての相談や情報提供、助言等を行う地域子育て支援拠点施設を運営する。

⑥姫路駅周辺土地区画整理事業

姫路駅を中心とする南北市街地の一体化を図る交通体系を確保し、駅前広場や都市計画道路等の整備改善を行うことで、都市拠点としてふさわしい街区を形成する。

民主導による持続的なエリアマネジメント

⑦ウォーカブル推進事業

民間事業者や住民が、向こう三軒両隣の範囲の公共空間の活用に取り組むことで、スモールエリアでの民主導のエリアマネジメントが促進される。

⑧まちなかイルミネーション連携事業

公民が共同して地域連携事業に取り組むことで、認知度向上のほか、各事業者の主体的な企画の発案が促進されることでまちなか全体の魅力向上に繋がる。

